



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔米国基準〕(連結)

平成30年1月31日

上場会社名 株式会社ワコールホールディングス

上場取引所 東

コード番号 3591 URL <http://www.wacoalholdings.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚本 能交

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 宮城 晃

TEL 075-682-1010

四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	148,416	△ 0.4	13,056	16.8	14,833	△ 10.3	9,868	△ 18.3
29年3月期第3四半期	149,019	△ 3.2	11,175	△ 12.0	16,543	16.4	12,085	20.5

(注) 四半期包括利益 30年3月期第3四半期 19,849百万円 (101.8%) 29年3月期第3四半期 9,834百万円 (△3.0%)

	1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益	希薄化後1株当たり当社株 主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	144.88	144.40
29年3月期第3四半期	173.46	172.94

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益」及び「希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	301,982	240,881	235,975	78.1	3,503.09
29年3月期	294,958	232,482	227,568	77.2	3,317.05

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり株主資本」を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	—	—	36.00	36.00
30年3月期	—	18.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	36.00	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成30年3月期(予想)の1株当たり期末配当金については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式併合を考慮しない場合の平成30年3月期(予想)の1株当たり期末配当金は18円となり、1株当たり年間配当金は36円となります。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当社 株主に帰属す る当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	200,000	2.1	11,500	3.9	12,500	△ 24.6	9,000	△ 28.1	132.13

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成30年3月期の連結業績予想における1株当たり当社株主に帰属する当期純利益については、当該株式併合の影響を考慮しております。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 除外 — 社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無

(注) 詳細は10ページ 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (5) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更) をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	71,689,042 株	29年3月期	71,689,042 株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	4,327,028 株	29年3月期	3,083,605 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	68,113,218 株	29年3月期3Q	69,670,203 株

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々なリスクや不確実性、その他の要因により、本資料の予想と大きく異なる結果となる可能性があります。

(株式併合後の配当及び連結業績予想について)

当社は、平成29年6月29日開催の第69期定時株主総会において、株式併合について承認可決され、平成29年10月1日を効力発生日として、普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。なお、株式併合考慮前に換算した平成30年3月期の配当予想及び連結業績予想は以下のとおりとなります。

- 平成30年3月期の配当予想
1株当たり配当金 第2四半期末 18円00銭 (注1) 期末 18円00銭 (注2)
- 平成30年3月期の連結業績予想
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益 通期 66円07銭

(注1) 第2四半期末の配当は、株式併合実施前の株式数に対して支払いを行っております。

(注2) 株式併合考慮前に換算した配当額です。

(注3) 平成30年3月期の年間配当金(株式併合考慮前)は36円00銭となります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する説明	P. 2
(2) 連結財政状態に関する説明	P. 5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書	P. 8
(3) 四半期連結包括損益計算書	P. 8
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(5) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(会計方針の変更)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 10
(6) 販売の状況	P. 12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

①当第3四半期の業績

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年12月31日）の国内景気は、緩やかな回復基調とともに雇用情勢の改善傾向が続きました。しかしながら、実質所得は依然伸び悩んでおり、社会保障に対する将来不安を背景とした節約志向が続くなど、消費の回復は緩慢なものとなりました。国内のレディスインナー市場も同様に、訪日外国人（インバウンド）消費によって大きな落ち込みは回避できたものの、個人消費の回復は鈍く、また量販店等の閉店も引き続いたことから厳しい状況となりました。一方で海外の市場は、米国では個人消費が底堅く推移、ヨーロッパでは英国のEU離脱を巡って不透明感は根強いもののユーロ圏の雇用環境は改善が持続、欧米の消費者マインドの堅調さに目立った変化は見られませんでした。中国では1人あたり可処分所得の高伸長が続くなど、良好な所得環境を背景にした実質小売売上高の好調な推移が見られました。

このような環境において、当社グループは中期経営計画で掲げる目標の達成に向けて、引き続き事業構造の整備と強化を進めています。国内事業においては、営業体制の再編と強化、生産性の向上、卸売事業とのシナジーを発揮するオムニチャネルサービスの具体化や、在庫効率を高めるための基幹IT整備、ブランドや商品グループの見直しによる採算性の向上に着手しています。海外事業においては、欧米やアジア地域間の事業連携、ECへの対応力の強化、中国やASEANの商品供給拠点における品質・コスト競争力の向上に対する取り組みを続けています。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、国内は卸売事業の苦戦が続いたことから前年同期を2%下回る結果となりました。海外はECを通じた販売が好調に推移したほか、欧米と中国の既存店も堅調で前年同期を8%上回りました。他方、ピーチ・ジョン事業、その他事業は減収となり、連結売上高合計は前年同期に比べ0.4%の微減となりました。

連結営業利益は前年同期に比べ17%の増加となりました。国内の販管費抑制や海外の増収効果のほか、第1四半期に子会社の工場用地退去に伴う補償金収入を計上したこと、また前年同期に発生したフランス子会社の清算手続きに伴う一時的な費用影響がなくなったことから、収益を大きく改善しました。

連結税引前四半期純利益は、前年の第1四半期に固定資産（土地）売却益を計上したため、その反動から前年同期を下回り10%の減少となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の主要な為替換算レートは、1米ドル＝111.70円、1英ポンド＝145.75円、1中国元＝16.47円です。

●売上高	1,484億16百万円	（前年同期比	0.4%減）
●営業利益	130億56百万円	（前年同期比	16.8%増）
●税引前四半期純利益	148億33百万円	（前年同期比	10.3%減）
●当社株主に帰属する四半期純利益	98億68百万円	（前年同期比	18.3%減）

②オペレーティング・セグメントの営業概況

a. ワコール事業（国内）

株式会社ワコールでは、当期から従前のワコールブランド事業本部、ウイングブランド事業本部を改組し、「ワコール」ブランド商品の企画開発と、主に百貨店と専門店チャンネルへの卸売事業を担当する「ワコールブランド事業本部」、および「ウイング」ブランド商品の企画開発と、主に量販店への卸売事業を担当する「チェーンストア事業本部」に再編しました。

ワコールブランド事業本部とチェーンストア事業本部を合わせた卸売事業を中心とする売上高は、前年同期に比べ2%下回りました。百貨店における店頭ベースの販売額は、訪日外国人消費によって東京、大阪圏では大きく拡大した一方、関東、東日本の地方都市では低調に推移したことが響いて前年同期並みにとどまりました。また量販店における店頭ベースの販売額は、「ワコール」と「ウイング」の両ブランドを効果的に展開する「Dual W（デュアルダブル）」売場への改装を積極的に進め、主力店では堅調な伸びを達成し、同時に市場シェアを拡大しま

したが、メンズインナーウェアの不振、地方店舗の閉鎖影響を受けた結果、前年同期並みとなりました。快適性を訴求したブラジャー「GOCOCI(ゴコチ)」は、発売から1年半を過ぎてなお高い伸長が続いていますが、気温の降下とともに売上全体に対する寄与率は低下しました。

小売事業本部の売上高は前年同期に比べ微増にとどまりました。直営店を横断展開するブラジャー「BRAGENIC(ブラジェニック)」は安定的な主力商品に育っています。主力の直営店「AMPHI(アンフィ)」では割引販売を縮小する一方、顧客会員の獲得を通じたロイヤルティの高い愛用者の拡大に努めたほか、品番数の削減や不採算店の閉鎖を進めるなど、事業収益性の向上を優先して進めています。

ウエルネス事業部の売上高は、主力ブランドの「CW-X(シーダブリューエックス)」が一部のスポーツ量販店との取り引きを中止した影響などから苦戦し、前年同期比2%の減少となりました。

WEB販売事業部(旧称・通信販売事業部)の売上高は、ウェブストア事業では、小売事業本部と連動し休眠顧客の掘り起こしを進めたほか、「ミニマイザー」などニッチ商品に焦点をあてた市場開拓が利用者数の拡大につながり、前年同期比14%増加となりました。一方カタログ事業では、冬号においても利用者、購買客数ともに漸減傾向が続いた結果、事業部全体では前年同期比1%の微増となりました。

株式会社Ai(アイ)の売上高は、主力の水着事業では、短期販売員の確保が困難になるなかで最盛期の季節型店舗数を縮小した影響から前年同期を4%下回りました。また下着事業も不採算店の閉鎖等により14%減少と振るわず、全体では前年同期に比べ6%の減少となりました。

以上、当該セグメントの売上高は前年同期に比べ2%減少する結果となりました。

営業利益は、IT環境の整備費用や健康保険料の料率変更に伴う費用、退職給付費用の増加に加え、株式会社Aiの営業損失の拡大が響きましたが、卸売事業組織の再編による経営効率の向上、小売事業における収益性強化に向けた取り組みを進めることによって吸収しました。合わせて第1四半期に、子会社の工場用地退去に伴う補償金収入を計上したことを受けて前年同期比17%の増加となりました。

●売上高	891億81百万円	(前年同期比	2.0%減)
●営業利益	84億43百万円	(前年同期比	16.6%増)

b. ワコール事業(海外)

ワコールインターナショナル(米国)の現地通貨ベースの売上高は、秋冬シーズンの新製品売上が前期実績に及ばず、店頭ベースの販売高は伸び率が鈍化しました。加えて一部百貨店やEC専門の得意先における在庫調整やハリケーン被害による流通の停滞が響き、第3四半期単独では前年同期比3%の減少となりました。しかしながら、自社EC、他社ECを通じた販売(小売ベース)が、上半期から引き続き高い伸びを示して全体をけん引していることや、「ワコール」ブランドの取扱い百貨店の店舗数の増加に伴った初回納品が第1四半期にあったことから、累計では前年同期比5%の増加となりました。

現地通貨ベースの営業利益は、建値販売比率の向上や自社ECによる売上構成比の増加、売上増加に伴う製造間接費比率の降下に伴って、売上利益率が上昇し上半期の実績に大きく寄与しました。第3四半期に売上が減速したものの、自社ECの販売強化に向けたリスティング広告やサイト改編費用などの投下を継続した結果、累計期間の営業利益は前年同期に比べ18%の増加となりました。

ワコールヨーロッパの現地通貨(英ポンド)ベースの売上高は、フランスでは清算したブランドの売上が消失した影響から前年同期を下回りましたが、主軸の英国、米国をはじめ、各国での販売は順調に推移しました。英米の両国では高級下着を専門とする他社ECでの販売が好調に推移しました。北欧やドイツ、オーストラリアでは水着が好調で高い伸びを示したほか、ユーロ圏では対英ポンド安による売上の嵩上げも寄与しました。下着では豊満体型女性向けブランド「elomi(エロミ)」が前年同期比23%増加と高成長を続け、水着では「FANTASIE(ファンタジー)」が26%増加、「Freya(フレヤ)」が18%増加と好調に推移した結果、全体では前年同期比4%の増加となりました。

営業利益は、前年同期に計上したフランス子会社の清算手続に伴う一時的な費用影響がなくなったこと、加えて自社EC改編時期の延期に伴った販管費の抑制もあって、計画を上回る収益の改善となりました。

中国ワコールの現地通貨ベースの売上高は、消費者のファッション感度の高まりに相まって、第1四半期の春節や婦人節といった需要期には特設売場を開設、購買客数が増加しました。また第2、第3四半期では、他社ECによる販路の拡大や販促イベントを積極的に実施しました。これらの結果、「ワコール」ブランドは前年同期を11%上回り、また「ピーチ・ジョン」ブランドも「谷間見せないストラップレス」ブラがヒットするなど、着実な愛用者の拡がりから59%の増加と大きく伸び、全体でも前年同期に比べ11%の増加となりました。

現地通貨ベースの営業利益は、採算性の低い売場からの撤退を進めたほか、改装計画の延期などによって販管費抑制を行い収益性の向上に努め、前年同期比29%の増加となりました。

以上、邦貨に換算後の当該セグメントの売上高は前年同期比8%、営業利益は38%、ともに増加する結果となりました。

●売上高	393億40百万円	(前年同期比 8.2%増)
●営業利益	39億33百万円	(前年同期比 37.9%増)

c. ピーチ・ジョン事業

国内の売上高は、店舗事業ではプレミアム感ある演出を施した「SALON (サロン) by ピーチ・ジョン」が新規出店による上乘せ効果もあって前年同期比36%増加と大きく伸びましたが、「ピーチ・ジョン」は前年同期にヒットした「ミラクルヌーディブラ」の販売実績を補い切れず前年同期並みにとどまりました。また、他社ECを中心とする外販事業でも同様に、今期の秋冬キャンペーン「ギフトブラ」の不調が響いて第3四半期に減速した結果、前年同期並みとなりました。通販事業では購買単価の上昇が見られましたが、話題性に欠けたことなどから自社ECへの訪問客数が落ち込み、前年同期比14%の減少となりました。海外の売上高は、5月に営業を始めた台湾では、店舗、自社ECともに計画を大きく上回っており、とりわけ自社ECでは売上計画の2倍となりました。この結果、当該セグメント全体の売上高は前年同期を4%下回る結果となりました。

営業利益は、減収ながらも国内のインナーウェアの建値販売比率が向上し売上利益率が改善したことや広告宣伝費等を削減したこと、また中国事業の売上拡大を受けて収益性の向上が進んだことから、前年同期並みの結果となりました。

●売上高	80億98百万円	(前年同期比 4.2%減)
●営業利益	5億12百万円	(前年同期比 0.2%減)

d. その他

株式会社ルシアンの売上高は、アート・ホビー事業ではソーイング生地が低調でしたが、刺しゅう等の手芸用品はC2C市場の拡がりを背景に堅調で前年同期並みとなりました。しかしながら、主力のインナー事業で大手量販店向けPBの受注減少を受けて前年同期に比べ14%減少したことをはじめ、マテリアル事業では服飾レースの需要減が響き18%減少と苦戦、またアパレル事業は量販店向けPB事業の撤退とテレビ通販の販売不振の影響を受けて55%減少と大きく落ち込みました。この結果、全体では前年同期を19%下回りました。

営業利益は、販管費の抑制に努めましたが、減収に伴って売上利益額が落ち込み前年同期比89%の減少となりました。

株式会社七彩の売上高は、衣料品業界の景況感に改善が見られず、百貨店をはじめとした得意先からの大口受注が減少、低調に推移しました。レンタル事業では第3四半期に入り、百貨店等の特設売場向け短期物件の需要に持ち直しが見られて前年同期並みとなりましたが、物販事業、工事業では前年同期に大型受注があった反動もあり、それぞれ9%減少、10%減少と苦戦しました。この結果、全体では前年同期に比べ8%の減少となりました。

営業利益は、レンタル事業の原価率改善と工事事業の売上比率減少に伴って売上利益率が改善した結果、前年同期の営業損失(赤字)から黒字に転じました。

以上の結果から、当該セグメントの売上高は前年同期比11%の減少、営業利益は70%の減少となりました。

●売上高	117億97百万円	(前年同期比 10.6%減)
●営業利益	1億68百万円	(前年同期比 70.3%減)

(2) 連結財政状態に関する説明

①資産、負債、株主資本等の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、時価上昇による投資の増加などにより、前連結会計年度末に比して70億24百万円増加し、3,019億82百万円となりました。

負債の部は、未払金や未払給料及び賞与が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比して13億75百万円減少し、611億1百万円となりました。

株主資本は、利益剰余金や未実現有価証券評価損益の増加などにより、前連結会計年度末に比して84億7百万円増加し、2,359億75百万円となりました。

以上の結果により、当第3四半期連結会計期間末における株主資本比率は、前連結会計年度末に比して0.9%増加し、78.1%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比して23億32百万円減少し、316億63百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益99億13百万円に減価償却費や繰延税金などによる調整を加えた金額に対して、資産及び負債の増減などによる調整を行った結果、139億23百万円の収入(前年同期に比し28億28百万円の収入減)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の増加や有形固定資産の取得などにより、46億52百万円の支出(前年同期に比し34億74百万円の支出増)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払や自己株式の取得などにより、119億67百万円の支出(前年同期に比し31億93百万円の支出増)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、平成29年5月10日に公表した数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

科 目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)	増減金額
(資産の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動資産			
現金及び現金同等物	33,995	31,663	△ 2,332
定期預金	2,722	3,889	1,167
有価証券	1,457	1,418	△ 39
売掛債権	25,563	22,912	△ 2,651
返品調整引当金及び貸倒引当金	△ 2,477	△ 2,845	△ 368
たな卸資産	43,822	44,502	680
繰延税金資産	4,049	—	△ 4,049
その他の流動資産	4,683	5,046	363
流動資産合計	113,814	106,585	△ 7,229
II. 有形固定資産			
土地	21,555	21,587	32
建物及び構築物	72,664	73,378	714
機械装置及び工具器具備品等	17,722	18,503	781
建設仮勘定	274	337	63
	112,215	113,805	1,590
減価償却累計額	△ 56,927	△ 59,156	△ 2,229
有形固定資産合計	55,288	54,649	△ 639
III. その他の資産			
関連会社投資	20,868	22,089	1,221
投資	59,847	71,385	11,538
のれん	16,071	17,051	980
その他の無形固定資産	11,849	12,519	670
前払年金費用	10,287	10,633	346
繰延税金資産	1,060	1,272	212
その他	5,874	5,799	△ 75
その他の資産合計	125,856	140,748	14,892
資産合計	294,958	301,982	7,024

科 目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)	増減金額
(負債の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動負債			
短期借入金	7,716	7,484	△ 232
買掛債務			
支払手形	1,438	1,456	18
買掛金	11,605	10,943	△ 662
未払金	6,185	4,846	△ 1,339
	19,228	17,245	△ 1,983
未払給料及び賞与	7,093	5,516	△ 1,577
未払税金	2,964	2,527	△ 437
その他の流動負債	4,058	5,871	1,813
流動負債合計	41,059	38,643	△ 2,416
II. 固定負債			
退職給付に係る負債	1,956	1,916	△ 40
繰延税金負債	17,862	18,172	310
その他の固定負債	1,599	2,370	771
固定負債合計	21,417	22,458	1,041
負債合計	62,476	61,101	△ 1,375
(資本の部)			
I. 資本金	13,260	13,260	—
II. 資本剰余金	29,707	29,758	51
III. 利益剰余金	170,062	172,544	2,482
IV. その他の包括損益累計額			
為替換算調整勘定	1,212	3,645	2,433
未実現有価証券評価損益	21,075	28,670	7,595
年金債務調整勘定	△ 414	△ 561	△ 147
V. 自己株式	△ 7,334	△ 11,341	△ 4,007
株主資本合計	227,568	235,975	8,407
VI. 非支配持分	4,914	4,906	△ 8
資本合計	232,482	240,881	8,399
負債及び資本合計	294,958	301,982	7,024

(2) 四半期連結損益計算書

科 目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)		増減金額
	百万円	%	百万円	%	
I. 売上高	149,019	100.0	148,416	100.0	△ 603
II. 営業費用					
売上原価	69,277	46.5	68,245	46.0	△ 1,032
販売費及び一般管理費	68,567	46.0	67,823	45.7	△ 744
補償金収入	—		△ 708	△ 0.5	△ 708
営業費用合計	137,844	92.5	135,360	91.2	△ 2,484
営業利益	11,175	7.5	13,056	8.8	1,881
III. その他の収益・費用(△)					
受取利息	102		135		33
支払利息	△ 25		△ 10		15
受取配当金	1,127		1,267		140
有価証券・投資売却 及び交換損益(純額)	458		203		△ 255
有価証券・投資評価損益(純額)	△ 2		4		6
固定資産売却益	3,770		—		△ 3,770
その他の損益(純額)	△ 62		178		240
その他の収益・費用合計	5,368	3.6	1,777	1.2	△ 3,591
税引前四半期純利益	16,543	11.1	14,833	10.0	△ 1,710
法人税等	5,556	3.7	5,746	3.9	190
持分法による投資損益調整前 四半期純利益	10,987	7.4	9,087	6.1	△ 1,900
持分法による投資損益	1,252	0.8	826	0.6	△ 426
四半期純利益	12,239	8.2	9,913	6.7	△ 2,326
非支配持分帰属損益	△ 154	△ 0.1	△ 45	△ 0.1	109
当社株主に帰属する四半期純利益	12,085	8.1	9,868	6.6	△ 2,217

(3) 四半期連結包括損益計算書

科 目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)		増減金額
	百万円	百万円	百万円	百万円	
I. 四半期純利益	12,239		9,913		△ 2,326
II. その他の包括損益 — 税効果調整後					
為替換算調整勘定	△ 5,186		2,485		7,671
未実現有価証券評価損益	2,921		7,598		4,677
年金債務調整勘定	△ 140		△ 147		△ 7
その他の包括損益 合計	△ 2,405		9,936		12,341
四半期包括損益	9,834		19,849		10,015
非支配持分帰属四半期包括損益	249		△ 100		△ 349
当社株主に帰属する四半期包括損益	10,083		19,749		9,666

(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
	(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
	百万円	百万円
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		
1. 四半期純利益	12,239	9,913
2. 営業活動によるキャッシュ・フローへの調整		
(1)減価償却費	3,686	4,033
(2)返品調整引当金及び貸倒引当金(純額)	459	349
(3)繰延税金	118	762
(4)固定資産除売却損益(純額)	△ 3,575	67
(5)補償金収入	—	△ 708
(6)有価証券・投資売却及び交換損益(純額)	△ 458	△ 203
(7)有価証券・投資評価損益(純額)	2	△ 4
(8)持分法による投資損益(受取配当金控除後)	△ 751	△ 330
(9)資産及び負債の増減		
売掛債権の減少	3,237	2,867
たな卸資産の増加	△ 274	△ 434
その他の流動資産等の減少(△増加)	1,312	△ 368
買掛債務の減少	△ 1,352	△ 1,894
退職給付に係る負債の減少	△ 515	△ 615
その他の負債等の増加	2,303	450
(10)その他	320	38
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,751	13,923
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		
1. 定期預金の増加額	△ 2,456	△ 4,158
2. 定期預金の減少額	2,165	3,026
3. 有価証券の売却及び償還収入	692	720
4. 有価証券の取得	△ 295	△ 113
5. 有形固定資産の売却収入	3,553	161
6. 補償金収入	—	708
7. 有形固定資産の取得	△ 3,905	△ 2,422
8. 無形固定資産の取得	△ 1,371	△ 1,450
9. 投資の売却収入	833	134
10. 投資の取得	△ 272	△ 1,289
11. その他	△ 122	31
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,178	△ 4,652
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
1. 短期借入金の純増減額	△ 1,391	△ 431
2. 長期債務による調達	250	—
3. 長期債務の返済	△ 293	△ 35
4. 自己株式の取得	△ 2,548	△ 4,007
5. 当社株主への配当金支払額	△ 4,648	△ 7,386
6. 非支配持分への配当金支払額	△ 167	△ 194
7. その他	23	86
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,774	△ 11,967
IV. 為替変動による現金及び現金同等物への影響額	48	364
V. 現金及び現金同等物の増減額	6,847	△ 2,332
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	34,059	33,995
VII. 現金及び現金同等物の四半期末残高	40,906	31,663

補足情報

現金支払額		
利息	25	11
法人税等	2,254	5,424
現金支出を伴わない投資活動		
固定資産の取得価額	958	562

(5) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、市場買付により自己株式1,241千株を、総額3,998百万円にて取得しました。この結果、当第3四半期連結会計期間末における自己株式の残高は、前連結会計年度末に比して4,007百万円増加し、11,341百万円となりました。

(会計方針の変更)

当期より貸借対照表上における繰延税金の区分に関する新会計基準を適用しております。同基準は繰延税金資産及び繰延税金負債を貸借対照表において非流動項目として表示することを要求するものです。同基準の適用にあたり、過去の連結財務諸表等を遡及的に修正しておりません。なお、前期末における流動区分の繰延税金資産は4,049百万円です。

(セグメント情報等)

① オペレーティング・セグメント情報

前第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(単位:百万円)

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	91,018	36,355	8,450	13,196	149,019	—	149,019
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	908	7,490	754	4,422	13,574	△ 13,574	—
計	91,926	43,845	9,204	17,618	162,593	△ 13,574	149,019
営業利益	7,243	2,853	513	566	11,175	—	11,175

当第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(単位:百万円)

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	89,181	39,340	8,098	11,797	148,416	—	148,416
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	833	8,127	1,000	3,921	13,881	△ 13,881	—
計	90,014	47,467	9,098	15,718	162,297	△ 13,881	148,416
営業利益	8,443	3,933	512	168	13,056	—	13,056

(注) 各事業の主な製品

ワコール事業(国内)	… インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、スポーツウェア、レグニット他
ワコール事業(海外)	… インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、スポーツウェア、レグニット、その他繊維関連商品他
ピーチ・ジョン事業	… インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア)、アウターウェア、その他繊維関連商品他
その他	… インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、その他繊維関連商品、マネキン人形、店舗設計・施工他

② 地域別情報

前第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(単位:百万円)

	日本	アジア オセアニア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	112,367	14,477	22,175	149,019
構成比	75.4%	9.7%	14.9%	100.0%
営業利益	8,072	1,893	1,210	11,175

当第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(単位:百万円)

	日本	アジア オセアニア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	108,698	15,632	24,086	148,416
構成比	73.3%	10.5%	16.2%	100.0%
営業利益	9,007	1,597	2,452	13,056

(注) 1. 国又は地域の区分の方法は地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア・オセアニア: 東アジア、東南アジア及び西アジア諸国、オーストラリア

欧米: 北米及びヨーロッパ諸国

3. 売上高は連結会社を所在地別に分類したものであります。

(6) 販売の状況

製品の種類		前第3四半期 自平成28年4月1日 至平成28年12月31日		当第3四半期 自平成29年4月1日 至平成29年12月31日		増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
		百万円	%	百万円	%	百万円	%
インナーウェア	ファンデーション ・ランジェリー	110,589	74.2	112,031	75.5	1,442	1.3
	ナイトウェア	7,233	4.9	6,980	4.7	△ 253	△ 3.5
	リトルインナー	1,151	0.8	1,108	0.7	△ 43	△ 3.7
	計	118,973	79.9	120,119	80.9	1,146	1.0
アウターウェア ・スポーツウェア等		13,467	9.0	12,560	8.5	△ 907	△ 6.7
レッグニット		1,724	1.2	1,515	1.0	△ 209	△ 12.1
その他繊維製品 及び関連製品		7,032	4.7	6,502	4.4	△ 530	△ 7.5
その他		7,823	5.2	7,720	5.2	△ 103	△ 1.3
合 計		149,019	100.0	148,416	100.0	△ 603	△ 0.4